

市町村名	にしあわくらそん 岡山県西栗倉村	人口 増減	ピーク 人口 (H2)	人口 (H17)	人口 (H22)	人口 (H27)	社会増減率 H17→H22	社会増減率 H22→H27
関係団体	西栗倉村、エーゼロ(株)		1,939人	1,684人	1,520人	1,472人	△5.36%	1.17%

取組の
背景・経緯

○村の存続をかけて、百年の森林構想を策定

昭和30年代は、林業の村として栄えたが、木材輸入の増加や低価格化により林業が低迷し、森林の荒廃が進行。村の存亡をかけて平成20年に「百年の森林構想」を策定。美しい百年生の森林に囲まれた上質な田舎を実現するための取組を開始。

取組の
成果

○移住者数:200名(平成21年～平成28年)

○移住起業家:29名(平成21年～平成28年)、新規事業による雇用創出:89名(平成21年～平成28年)

○ローカルベンチャー売上額:1億円(平成21年)→9.4億円(平成28年)

取組の
概要

○百年の森林創造事業

村の面積の約80%を占める人工林は、50年前の先人が未来の子孫のために、一本一本広大な範囲を歩いて植えてきた。

平成20年に、この森林を世代を超えて守り育てていくため、通常は50年で伐採する木をあと50年村ぐるみで森林管理を行うことで、上質な木材による販売収入の増加や生物多様性の森を創造するための「百年の森林構想」事業を着想。

相続した山林の場所がわからない、管理ができないといった所有者から村が森林を預かり、森林組合に管理・整備を委託して、より付加価値の高い百年生の森林に整備する取組を平成21年から開始。

具体的には「西栗倉村長期施業管理に関する契約」を森林所有者、西栗倉村、森林組合の3者で締結。契約期間は10年間(更新可)で、施業にかかる費用を全て西栗倉村が負担。原木市場を経由せずに、森林組合の木材集積場で直接木材を販売するなどし、販売に係る手数料を差し引いた後の収益は、所有者に1/2を還元。残りの1/2は百年の森林創造事業の財源として西栗倉村が使用する仕組みを構築。

この百年の森林構想の取組に共感して移住した若者が、家具や内装材のデザインから制作・販売まで行う(株)西栗倉・森の学校や(株)ようび等のローカルベンチャーを次々に起業。地域に魅力的な雇用の受皿が生まれている。

(地方創生関係交付金を活用)

ヒノキの椅子

無垢の木の“ユカハリタイル”

○ローカルベンチャー支援事業

【全国各地の自治体の広域連携による、都市部でのローカルベンチャー育成共通プログラム】

ローカルベンチャー支援に熱心な西栗倉村を中心とした全国各地の10市町村(※)と、起業家人材育成に実績をもつNPO法人エティック、西栗倉村で起業家人材育成をおこなってきたエーゼロ(株)が連携して、都市部で起業家人材を育成する共通プログラムを開発。

(※)北海道下川町、北海道厚真町、岩手県釜石市、宮城県石巻市、宮城県気仙沼市、石川県七尾市、島根県雲南市、岡山県西栗倉村、徳島県上勝町、宮崎県日南市

【西栗倉村でのローカルベンチャースクール】

エーゼロ(株)が運営する西栗倉村ローカルベンチャースクールでは、上記の共通プログラムの履修者等が企画立案したベンチャープランを審査し磨くことで、彼らの村でのローカルベンチャーの起業を支援。創業後も過度な補助金や借入に依存しすぎないよう、金融機関等と連携して成長ステージに応じた資金調達のアドバイスを実施。

【ローカルベンチャーと子育て支援の融合施設】

西栗倉村は、平成30年4月にローカルベンチャー支援と子育て支援を融合した施設「KIDS GARDEN LABO」を開設予定。子育て支援だけでなく、この施設で木製のおもちゃなど木育製品のニーズ調査や仕様テストも同時に実施し、木材製品の研究所としても活用していく予定。

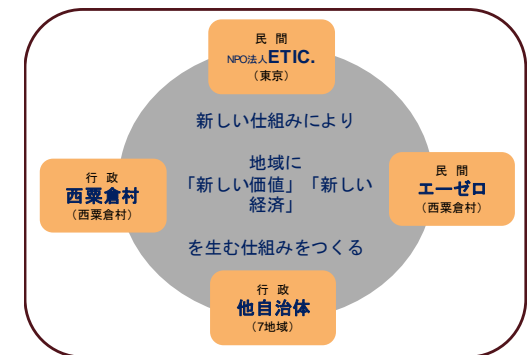
(上記の3つの取組全てにおいて、地方創生関係交付金を活用)



ローカルベンチャースクールの様子



KIDS GARDEN LABOのイメージ



広域連携による支援体制

○低炭素モデル地域創造事業

西栗倉村では、間伐材の薪ボイラー燃料としての有効活用や小水力発電による売電収入を活用した住宅用太陽光パネルの導入などを推進。こうした取組により平成25年に内閣府の「環境モデル都市」に認定された。

こうした資源の地域内循環を進める取組を通じ、地域内に新しい雇用が生まれ、熱供給を行うローカルベンチャーも生まれている。



薪ボイラー



小水力発電所

○行政がリーダーシップを発揮し、「百年の森林構想」という明確なビジョンを策定。このビジョンに共感した移住者が次々に起業し、ローカルベンチャーとして活躍している。

○ローカルベンチャー支援については、他自治体との広域連携によりノウハウを共有するなど、サポート体制を構築している。

【兵庫県篠山市】城下町の古民家をまちのホテルに再生し、新たな事業、雇用により若者回帰を促進

- ・篠山城の城下町を「ひとつのホテル」と見立て、一般社団法人ノオト、行政等が連携し、古民家等を活用して、宿泊棟、レストラン、カフェ、工房、シェアオフィス棟などを配置することで、まちなかに新たな事業や雇用を創造し、若者の地方回帰に寄与。
- ・ノオト、商工会、行政等が特徴的な支援を用意し、起業者がニーズに合った支援を受けられる環境を整備。

主なハード事業

○篠山城下町ホテルNIPPONIA

- ・地域コミュニティをベースに暮らしの再生を目指す一般社団法人ノオトが中心となり、篠山城下町の歴史地区を「ひとつのホテル」と見立て、宿泊棟、レストラン、カフェ、工房、シェアオフィス棟など、様々な機能を配置する歴史地区再生事業。(H27年10月に古民家等4棟を宿泊施設、飲食店等として改装しオープン)
- ・国家戦略特区での旅館業法の規制緩和により、各宿泊施設のフロントを一か所に集約してコストを抑えて客室を増やせるメリットを活用。



主なソフト事業

○サブリース方式等による空き家再生

- ・一般社団法人ノオトは、古民家を所有者から10年間無償で借り上げ(固定資産税相当額を負担)、自己資金を投資して改修し、事業者にサブリース。10年間の家賃収入で資金回収する手法で空き家を再生。
- ・所有者にとっては固定資産税の負担軽減、草刈り・修繕等のメンテナンスが不要となり、10年後には再生物件として戻ってくるなどのメリットがある。
- ・NPO法人町なみ屋なみは専門家の指導の下、ボランティアと協働で、低価格で改修する「古民家再生プロジェクト」を行っている。

○商工会による空き店舗対策

- ・地元不動産関係者の協力の下、開業希望者とマッチング、地元商店街との調整を行い、開業者に初期投資額の50%を助成。行政から商工会への助成に商工会が上乗せし、空き店舗対策の原資としている。

○篠山市の起業支援

- ・「定住促進」と「地域のにぎわいの創造」を目的とした市内の新規起業者を対象に、開業経費の一部を支援。①起業地助成として初期投資の30%②特産振興助成①とは別に初期投資の30%を支援。

篠山城下町ホテル 空き家活用事業 実績一覧表(平成28年4月1日現在)

棟No.	自治会名	内 容	事業 者 口	移住 者 数	従 業 者 数	事業手法	開業 年月
1		伝統工芸ギャラリー、カフェ	口	0	2	転売方式	H22.3
2	上二階町	宿泊(1室)	No.9に含 む	0	3	サブリース方式	H28.8
3		イタリア料理	★	0	3	(事業者購入)	H26.11
4	下二階町	木工など	★	4	3	サブリース方式	H24.10
5		住宅	★	3	—	(個人購入)	H25.5
6	魚屋町	住宅	★	2	—	(個人購入)	H27
7	下立町	陶芸ギャラリー	口	0	2	転売方式	H20.2
8		ショップ(昭和レトロ)	◎	0	2	地域運営方式	H21.7
9	西町	宿泊(5室)+レストラン	★	7	14	ファンド方式	H27.10
10		宿泊(3室)	No.9に含 む	0	3	サブリース方式	H27.10
11	西新町	カフェ	◎	0	4	サブリース方式	H22.10
12	東新町	人形工房、カフェ	★	2	—	(個人購入)	H23.4
13		ワインショップ、ガラス製品	★	2	3	(事業者購入)	H22.3
14	下河原町	アンティーク雑貨	★	1	8	サブリース方式	H22.4
15		観光交流拠点	◎	0	3	サブリース方式	H24.7
16		宿泊(1棟貸し)	No.9に含 む	0	3	サブリース方式	H27.10
17	上河原町	彫金・ジュエリー	★	1	1	サブリース方式	H25.10
18		自然食食堂	★	2	4	サブリース方式	H23.4
19		宿泊(2室)	No.9に含 む	0	3	サブリース方式	H27.10
NIPPONIAの運営事業者:バリューマネジメント(株)			計	24	49		
			◎地元住民	★移住	口通勤		

《官民協働》

【民】開業希望者とのマッチングによる空き店舗対策、城下町の趣を活かした古民家等をホテルやレストランに改装

【官】関係法令上の問題解決、規制緩和等。商工会の経営指導を受けた事業者に対する助成

《市の総合戦略における関連KPI》

- ・空き家提供者と入居希望者のマッチング事業による定住件数:70件(2015年)⇒80件(2020年)
- ・観光客入込数:1,700千人(2015年)⇒2,000千人(2020年)

今後の取組

- ・歴史的な街並みを活かした各種イベントや事業の実施
- ・継続的な事業者の運営のためのサポート

【岡山県倉敷市】地場の繊維産業を核とした「児島ジーンズストリート」による商店街の賑わい再生

- ・地場の繊維産業を核に、国産ジーンズ発祥の地であることから、シャッター通りとなっていた「味野(あじの)商店街」を「児島ジーンズストリート」と名付け、空き店舗に地元ジーンズメーカーを誘致。
- ・「ジーンズの聖地」を目指したまちづくりを行うとともに、魅力ある雑貨屋や飲食店等が新規出店することで、観光地としての魅力が高まり、海外からも含め年間15万人を超える観光客が集まる商店街へと再生。

主なソフト・ハード事業

○ジーンズの聖地「児島ジーンズストリート」

- ・児島地区の中心にある味野商店街において、一日平均の歩行者が20人ほどのシャッター通りとなる中、危機感を持った商店街や地元ジーンズメーカー、近隣企業等が「児島ジーンズストリート推進協議会」を設立(H21年)。
- ・味野商店街の通り約400メートルを「児島ジーンズストリート」と命名し、空き店舗へ地場ジーンズメーカー等を誘致。当初の2店舗から現在は30店を超えるジーンズ店が集積。
- ・若者の起業により雑貨店や飲食店等が新規出店するなど、商店街の魅力が向上。



児島ジーンズストリート



児島ジーンズストリートマップ

○出店者のまちづくりへの参加

- ・新規出店者にまちづくりを担ってもらうよう、地域諸団体への加盟や団体事業への協力、定休日以外は毎日開店すること等を出店規約で定めている。

○将来出店を目指す若者の人材育成

- ・倉敷市内の専門学校のデニムジーンズコースへの講義や実習の支援
- ・児島ジーンズストリートのイベント時における学生のボランティアでの参加

○まちのデニム化

- ・市において、商店街の通りのアスファルトをデニムの色合いにする「道路のデニム舗装」を実施(H26年)。
- ・地元のバスやタクシー等の交通事業者が協力し、外装がブルーで、シートやカバー等の内装にデニム生地をあしらった「ジーンズバス」(H18年～)やジーンズデザインの「ジーンズタクシー」(H24年～)を運行。
- ・JR西日本においても、児島駅に「ジーンズステーション 児島」の愛称をつけ、階段や窓、壁等をジーンズ柄でラッピング(H27年)



JR児島駅階段



ジーンズバス

児島ジーンズストリートにおける新規出店数

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
1店	5店	4店	4店	6店	7店	3店	4店

≪官民協働≫

- 【民】児島ジーンズストリート推進協議会による店舗誘致
- 【官】店舗改装費・家賃補助等の空き店舗対策事業

今後の取組

- ・継続的な出店誘致、カフェや遊び場設置等の滞在時間延長施策、駅からストリートまでの誘導看板の設置

≪市の総合戦略における関連KPI≫

- ・市内にある主要観光地の年間観光客数 4,752千人(H26)⇒6,000千人(H31)

【兵庫県豊岡市】豊岡鞆ブランド化と空き店舗再生を組み合わせた商店街の集客拡大と人材育成

- ・地場産業である豊岡鞆ブランド化と空き店舗再生を組み合わせ、他地域と差別化した商店街の個性・魅力づくりに注力し、職人育成の仕組みを組み込むことにより、まちの将来を担う人材の継続的な育成に取り組む。
- ・鞆関連の店舗が立ち並ぶ「カバンストリート」において、まちづくり会社や商店街、市が連携し、観光客を呼び込む新規開業の促進やイベント開催等により、まちの活性化を図っている。

主なハード事業

○豊岡鞆の新たな拠点の設置

- ・大手メーカーの受注生産にとどまっていた豊岡鞆をブランド化し、まちづくり会社（豊岡まちづくり株）により、中心市街地の宵田商店街の空き店舗を活用して、鞆専門店と職人育成校を併設した施設「アルチザンアベニュー」を設置（H26）。
- （H27売上：69百万円、H27来客数：18千人）
- ・宵田商店街を「カバンストリート」と位置づけ、鞆を核とした街の活性化を推進。鞆ショップが4店出店するなど、空き店舗が解消。
- ・市内の観光拠点である城崎温泉にも、鞆関連店舗が新規出店。



主なソフト事業

○鞆産業の将来を担う職人育成

- ・「アルチザンスクール」では、鞆づくりに関する工程のすべて（企画、デザイン、原価計算等）を習得し、独立開業等を支援。（これまでに23名卒業）
- ・「鞆縫製者トレーニングセンター」では、即戦力として働ける人材を育成し、市内鞆メーカーへの就職を支援。（これまでに76名修了）



○カバストマルシェの開催

- ・商店街にある鞆関連店舗以外にも、地域のクリエイター等が、空き店舗を活用して期間限定で出店し、鞆製造で出る端材を使った小物等を販売。
- ・イベントをきっかけに商店街での創業につながった実績もある。

《官民協働》

- 【民】豊岡まちづくり株によるアルチザンアベニューの設置・運営
商店街によるカバストマルシェの開催（空き店舗所有者の協力等）
- 【官】空き店舗活用等による創業支援

《市の総合戦略における関連KPI》

- ・かばん製造従事者養成講座受講者数 24人（H26） ⇒ 増加
- ・課税者一人当たり所得 257万円（H25） ⇒ 増加

今後の取組

- ・創業支援事業計画に基づく市域全体での空き店舗の解消
- ・革小物製品の製作技術向上のための事業者支援
- ・外国人観光客の更なる誘客に向けた城崎温泉等のプロモーション

